連盟通達

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　2018.5.20

理事長　菅　正剛

先日来、日大アメリカンフットボール部選手による不正なタックルについてテレビはじめ様々なメディアで連日報道されていることはご存知のことと思います。ラグビーの試合であればレイトタックルとして即退場処分となるプレーです。試合後も規律委員会に諮られ試合出場停止などの重い処分が科せられる可能性があります。また、聞き取り調査の結果しばしばそのような不正なプレーを行う選手であることが判明した場合は容認していた監督はじめチームの責任も問われることとなるでしょう。

幸い今回は軽傷で済んでいますが、無防備な状態へのタックルは一つ間違えば重傷事故につながります。ラグビーはルールのあるスポーツであり、激しいプレーとラフプレーは違うことを認識してください。

ラグビーにおけるPlayer Welfareを最も重要視する関東医歯薬大学ラグビーフットボール連盟においては、このような不正なプレーは断じて許されるものではありません。医歯薬リーグで同様の不正なプレーが生じた場合、連盟として当該選手、チームに対して厳しい処分を科すことも考えています。

各チーム指導者ならびにチーム幹部方々においては、チーム内で十分周知するようご指導ください。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　以上